

V 社会生活などに対する意識

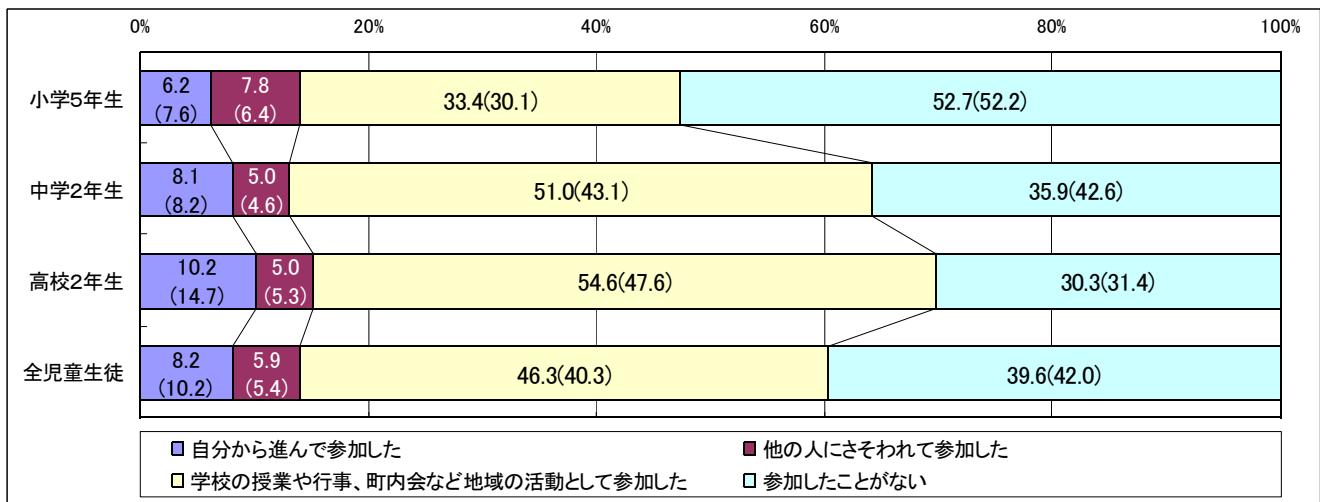
1 参加した体験活動 【小学5年生…問25】【中学2年生…問26】【高校2年生…問27】

あなたは、これまでに次のような活動に参加したことがありますか。それぞれあてはまるものを一つずつ選んで番号を教えてください。（ただし2回以上参加した場合は、答えがふえてもかまいません）

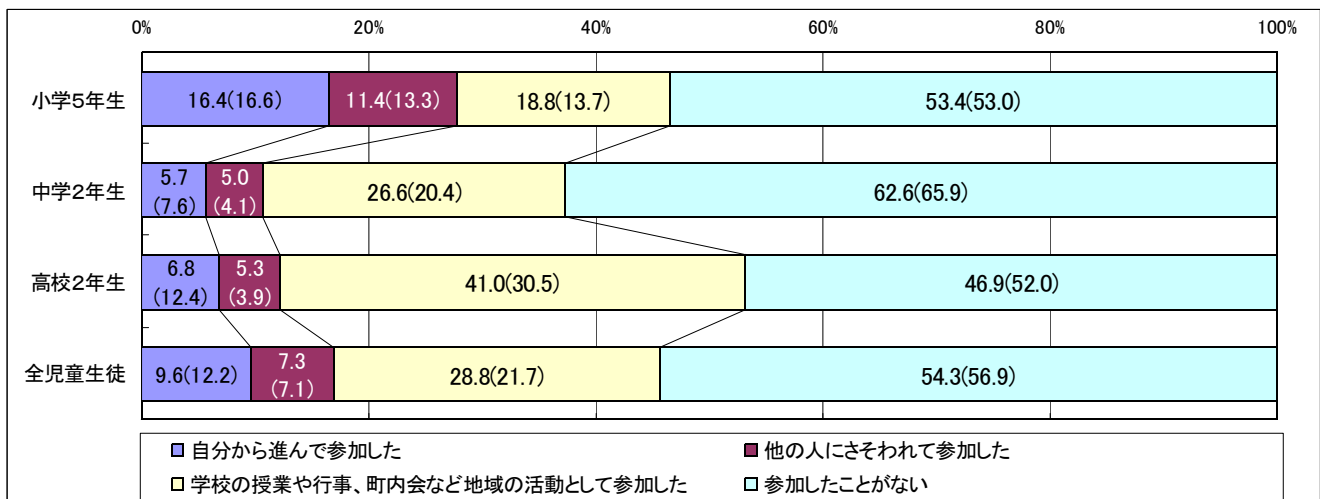
- (1) 自分から進んで参加した (2) 他の人にさそわれて参加した
 (3) 学校の授業や行事、町内会など地域の活動として参加した (4) 参加したことがない

※以下の①～⑥の調査結果については、P.86に総合的な分析を記載した。

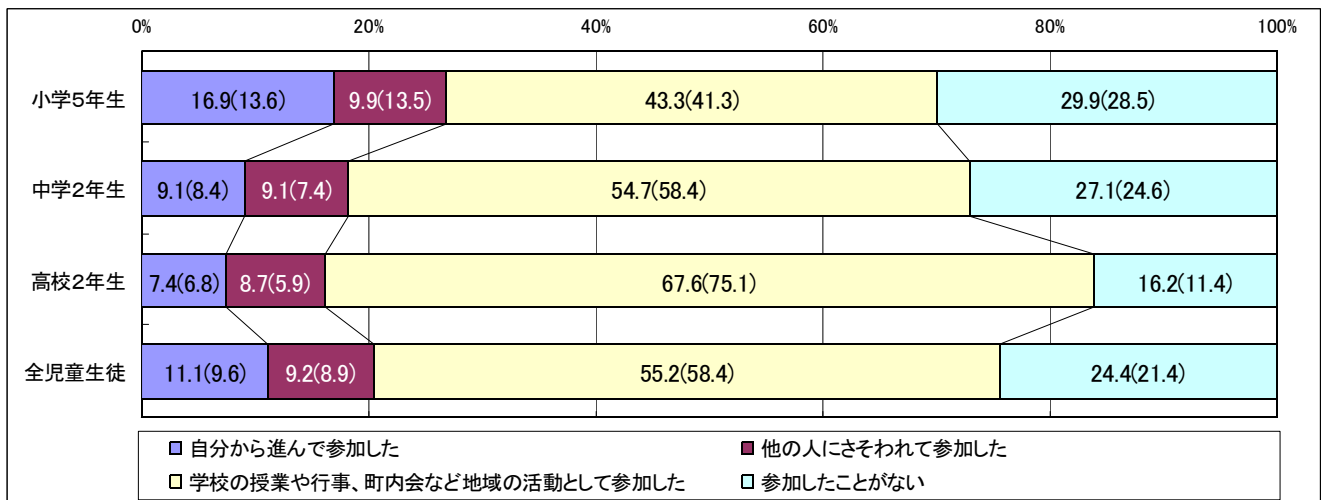
①老人ホームや病院などへの訪問



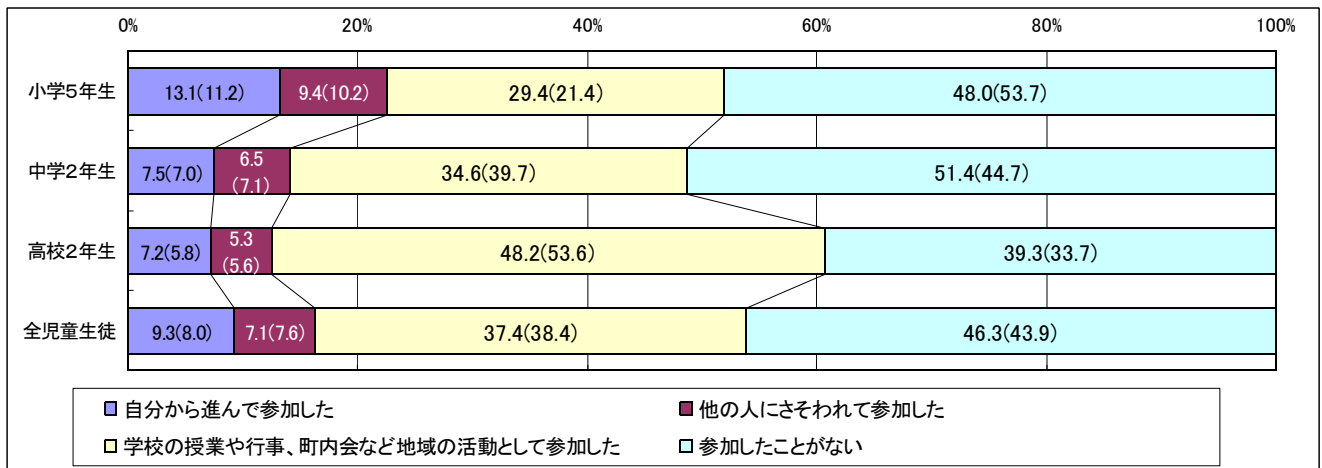
②障害のある人への支援や保育などの活動



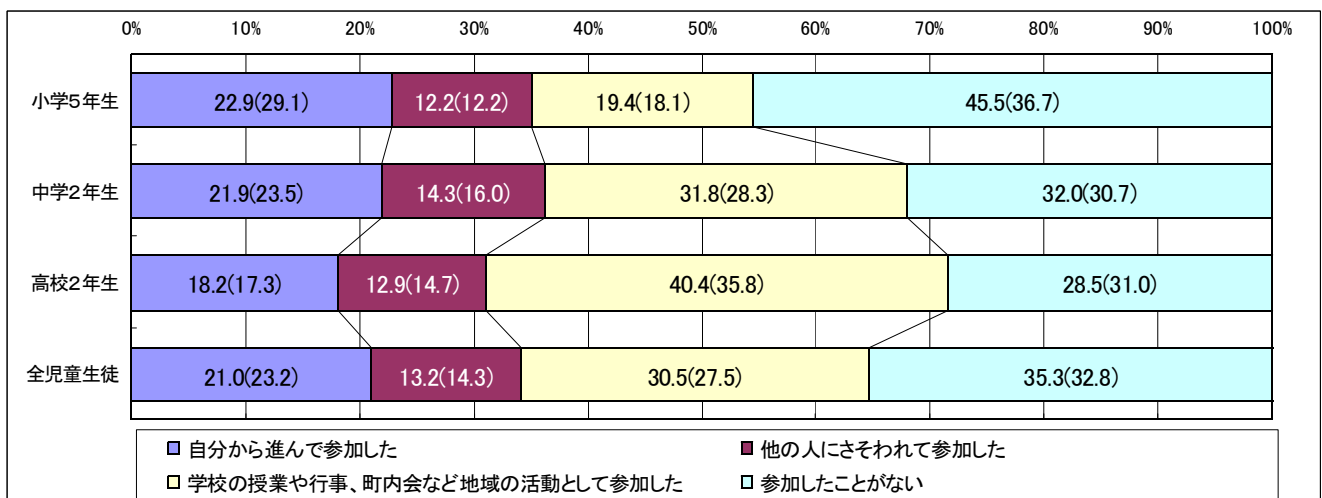
③道路、公園、海岸などの清掃



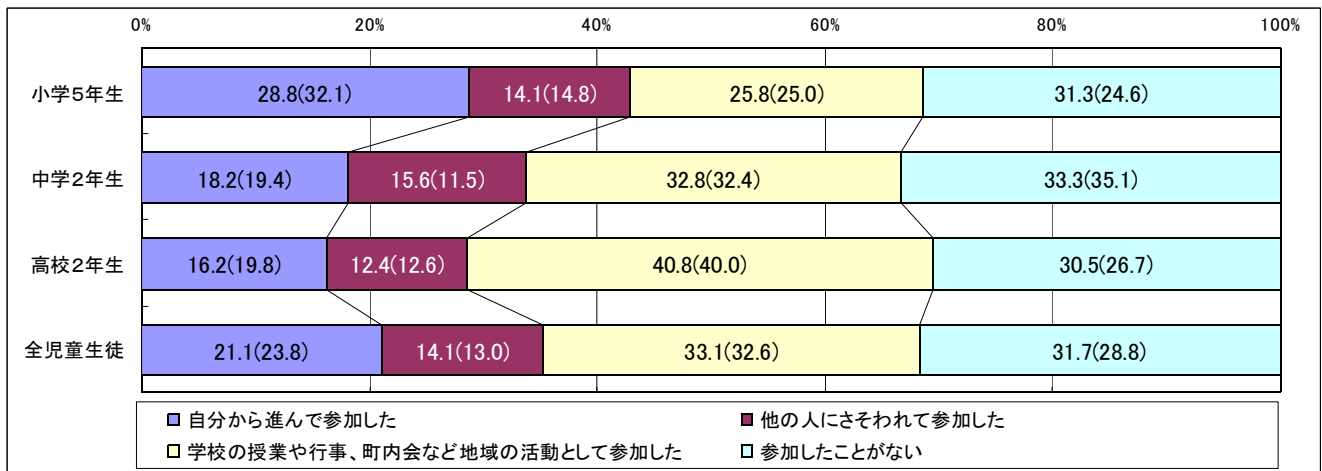
④古紙やアルミ缶などのリサイクル活動



⑤地域の伝統行事



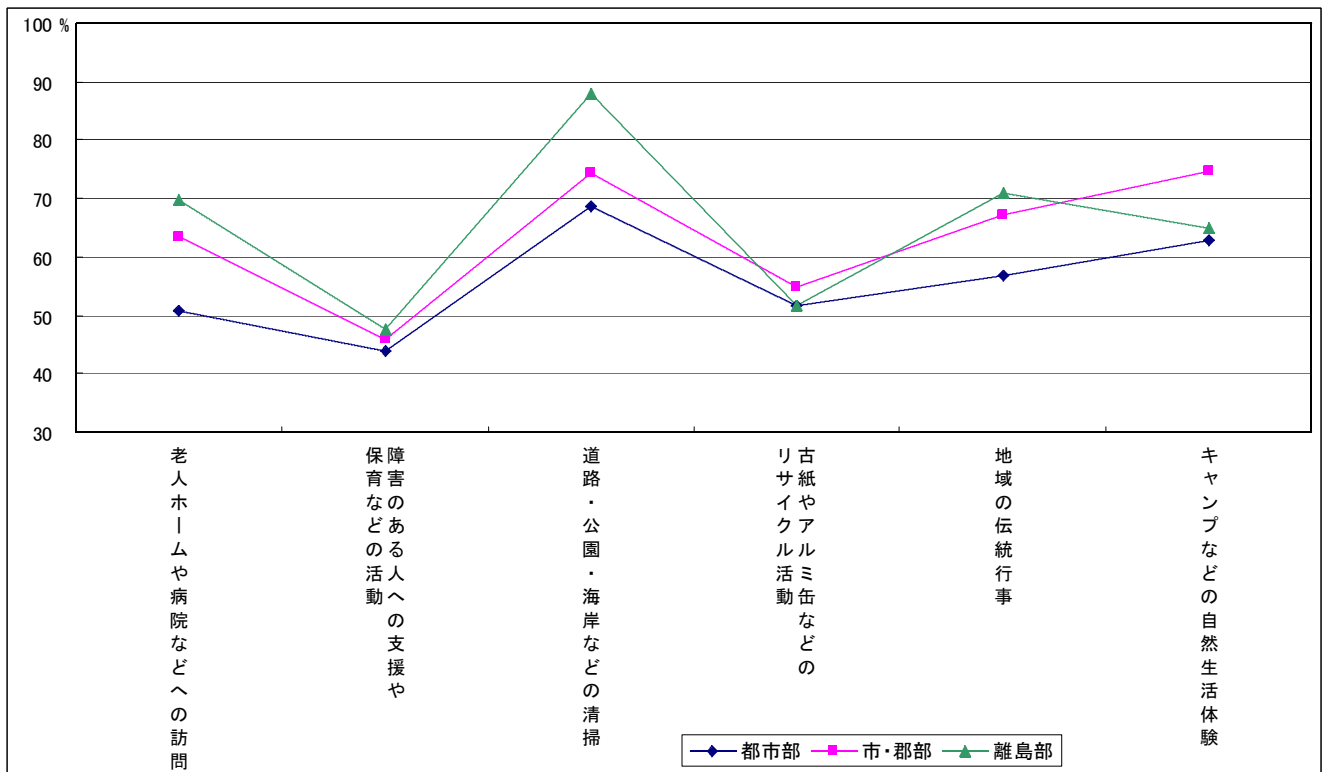
⑥キャンプなどの自然生活体験



◇全体的傾向

- 全児童生徒の参加経験者が多い方から、「道路・公園・海岸などの清掃」「キャンプなどの自然生活体験」「地域の伝統行事」「老人ホームや病院などへの訪問」「古紙やアルミ缶などのリサイクル活動」「障害のある人への支援や保育などの活動」の順となっている。
- 「参加の仕方」については、平成14年度と同様の傾向である。

◇地区別参加状況 「自分から進んで参加した」「他の人に誘われて参加した」「学校の授業や行事・町内会などの地域活動として参加した」のトータルで比較

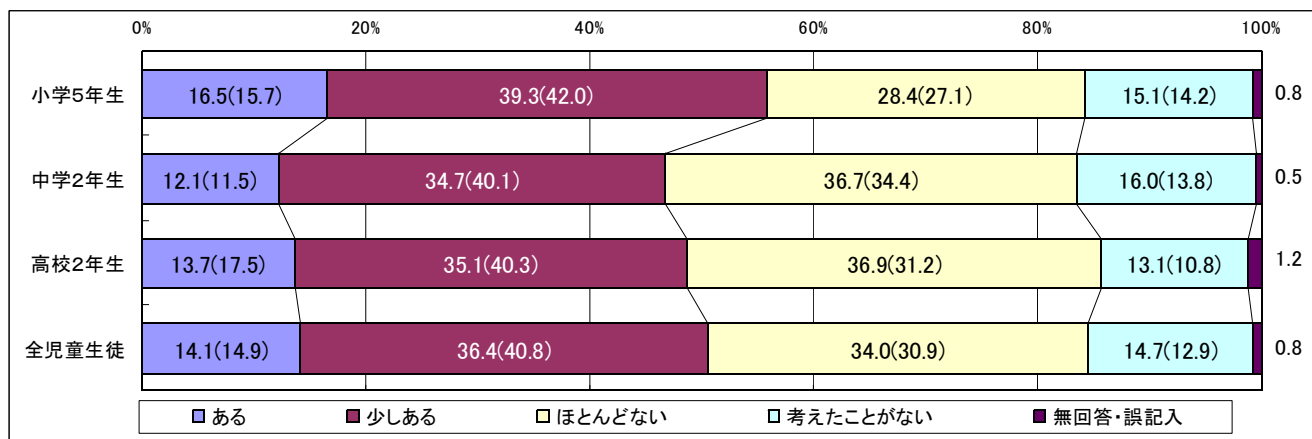


- 「道路・公園・海岸などの清掃」において、都市部，市・郡部，離島部の参加状況の差異が見られる。(都市部 68.7%，市・郡部 74.5%，離島部 87.9%)

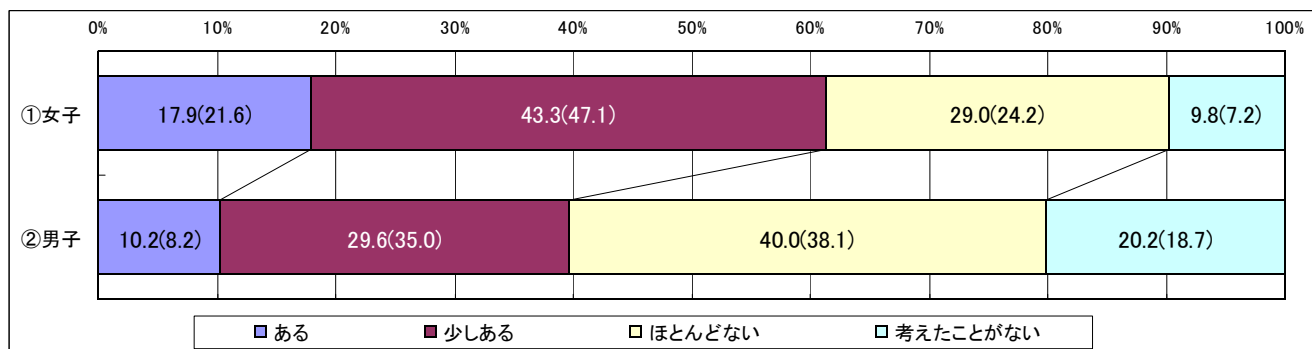
2 ボランティア活動への関心 【小学5年生…問26】【中学2年生…問27】【高校2年生…問28】

あなたはボランティア活動に興味がありますか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号を教えてください。

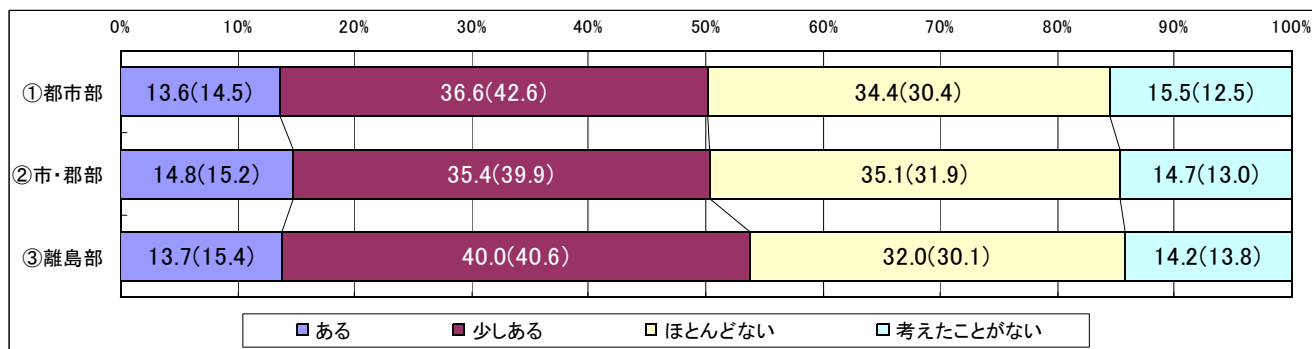
(1) ある (2) 少しある (3) ほとんどない (4) 考えたことがない



◇男女別



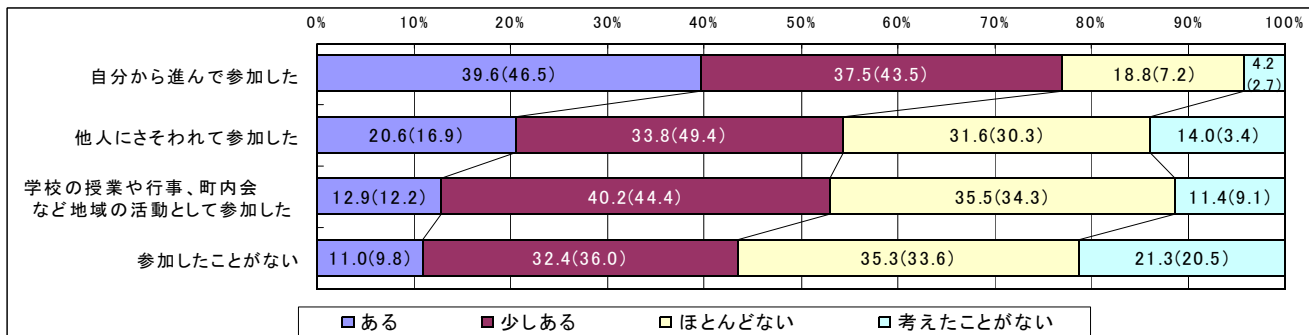
◇地区別



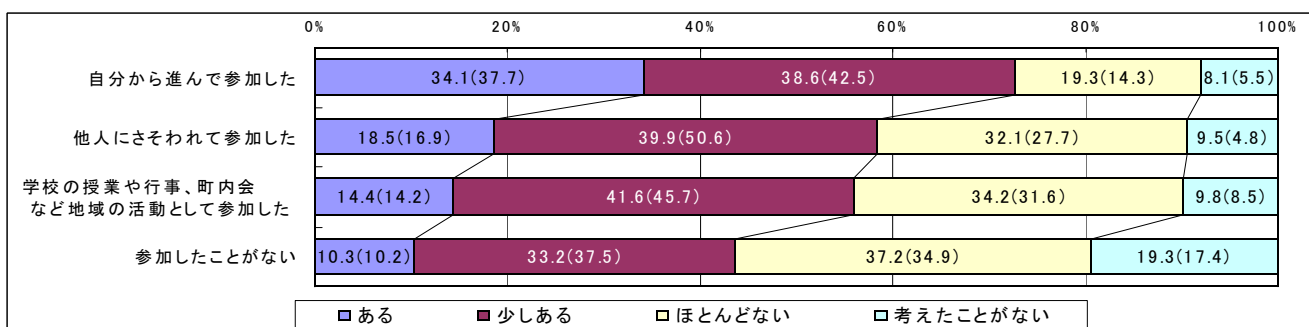
- 全児童生徒での回答の割合において、「ある」＋「少しある」は50.5%である。平成14年度と比較すると、5.2ポイント減である。
- 男女別では、女子が男子より関心が高い。平成14年度と比較すると、女子の関心がやや下がり気味である。（「ある」＋「少しある」を合わせると7.5ポイント減）
- 地区間の差異はほとんど見られない。

◇ボランティア活動への参加経験とボランティア活動への関心の関係【クロス集計】

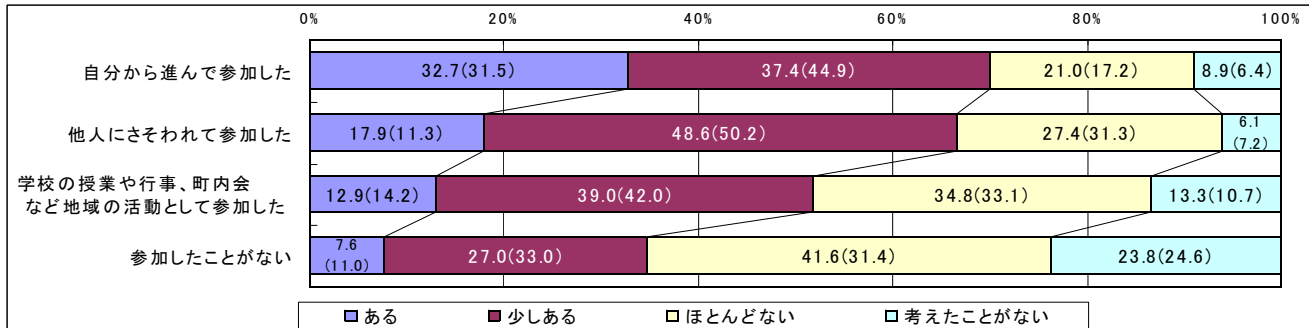
①「老人ホームや病院など施設への訪問」の経験のある者



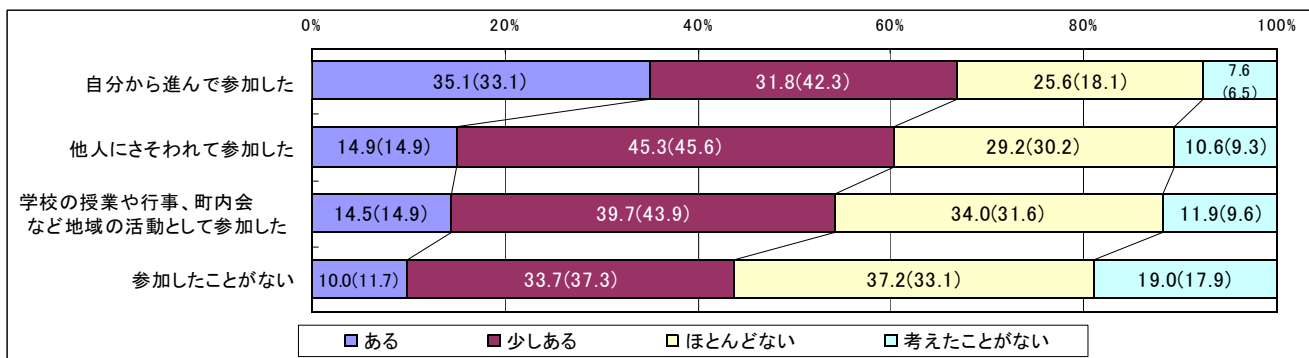
②「保育活動、障害のある人への支援」の経験のある者



③「道路・公園・海岸などの清掃」の経験のある者



④「古紙やアルミ缶などのリサイクル活動」の経験のある者

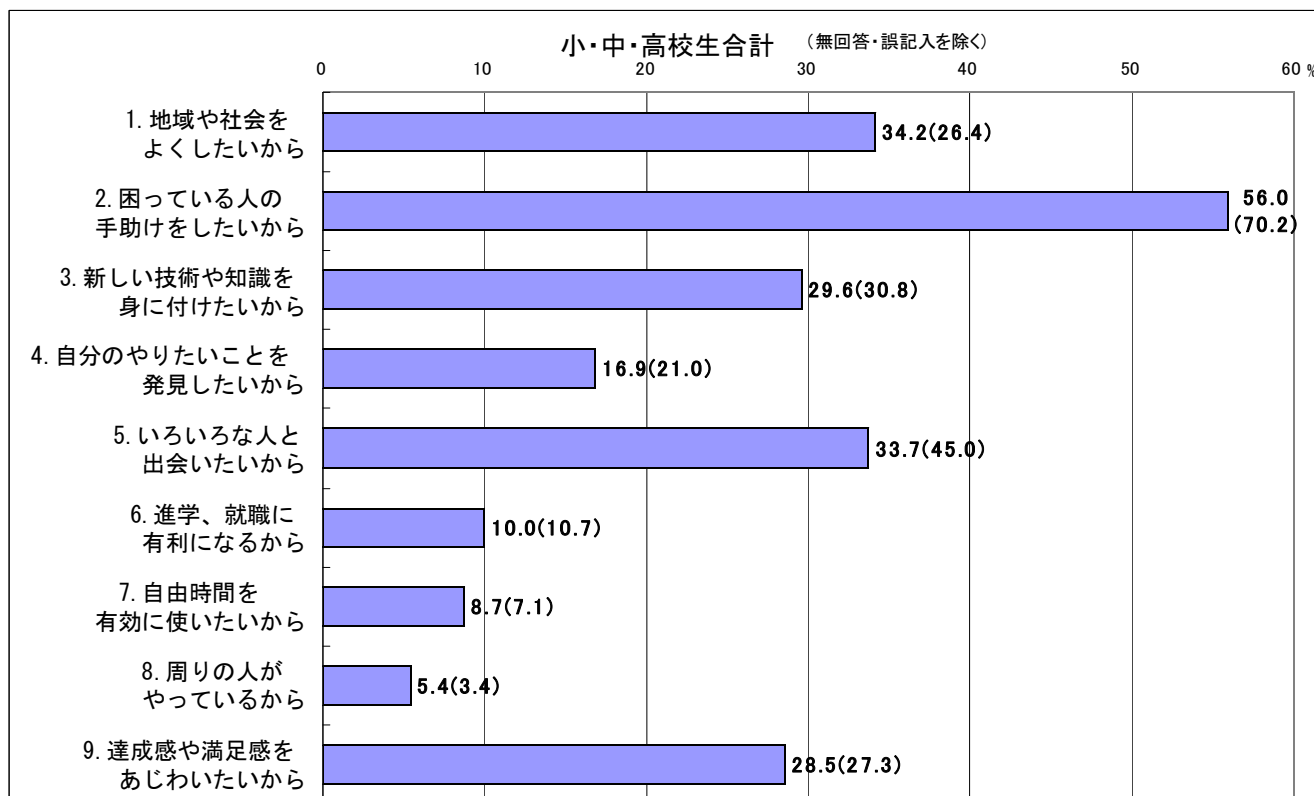


● ①～④項目の活動のそれぞれに「自分から進んで参加した」と回答した者の割合は、他と比べてボランティア活動への関心が極めて高い。また、「他人にさそわれて参加した」「学校の授業や行事、町内会など地域の活動として参加した」と回答した者は、「参加したことがない」者より、関心がある（「ある」＋「少しある」）と答えた割合が高い。平成14年度と同様の傾向である。

3 ボランティア活動への関心の理由 【小学5年生…問27】【中学2年生…問28】【高校2年生…問29】

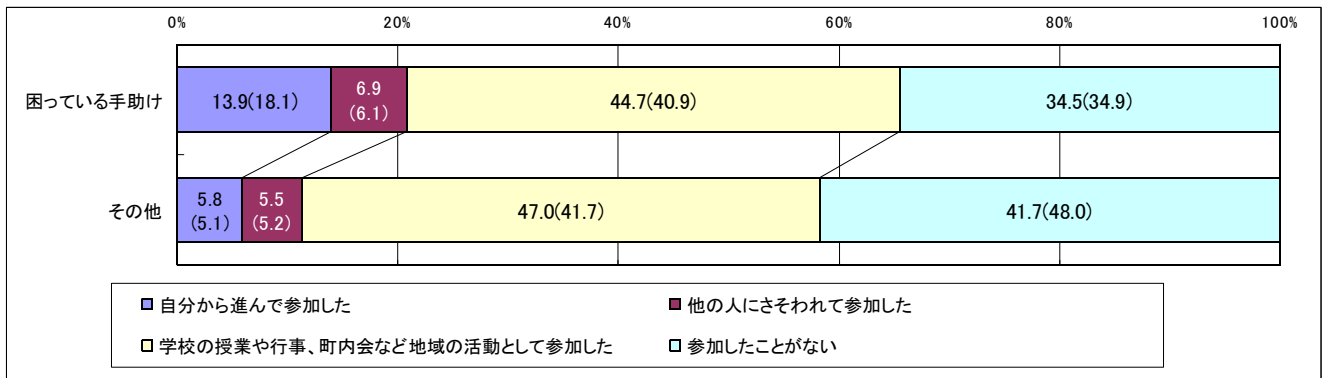
ボランティア活動に参加したのは、どのような気持ちからですか。次の中からあてはまるものを三つまで選んで番号を教えてください。

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| (1) 地域や社会をよくしたいから | (2) 困っている人の手助けをしたいから |
| (3) 新しい技術や知識を身に付けたいから | (4) 自分のやりたいことを発見したいから |
| (5) いろいろな人と出会いたいから | (6) 進学、就職に有利になるから |
| (7) 自由時間を有効に使いたいから | (8) 周りの人がやっているから |
| (9) 達成感や満足感をあじわいたいから | |

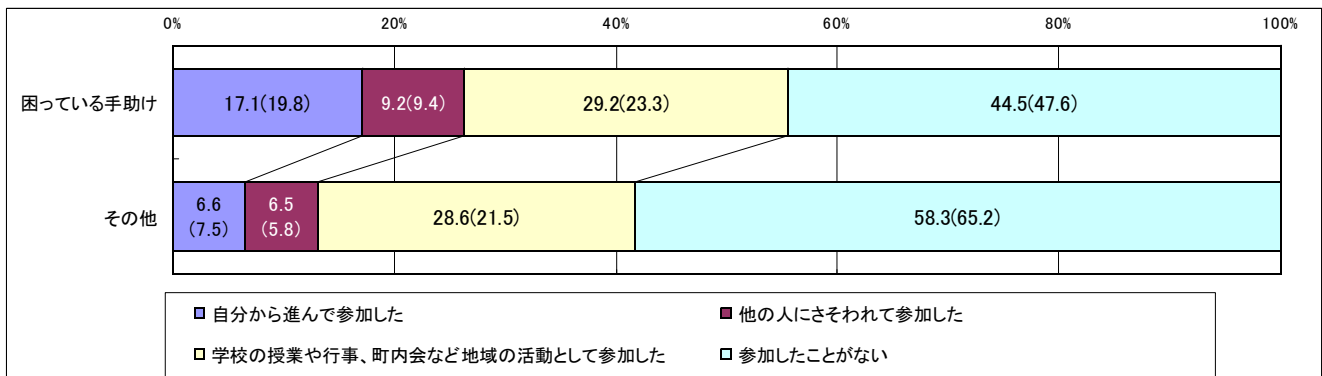


- 「ボランティア活動への関心の理由」の回答の割合は、全児童生徒では「困っている人の手助けをしたいから」(56.0%)が最も多く、次いで「地域や社会をよくしたいから」(34.2%)、「いろいろな人と出会いたいから」(33.7%)、「新しい技術や知識を身に付けたいから」(29.6%)、「達成感や満足感をあじわいたいから」(28.5%)の順になっている。
- 平成14年度と比較すると、「地域や社会をよくしたいから」の順位が5位から2位になっている。

◇「困っている人の手助けをしたいから」と「老人ホームや病院など施設への訪問」（参加した体験活動）との関係【クロス集計】



◇「困っている人の手助けをしたいから」と「保育活動、障害のある人への支援」（参加した体験活動）との関係【クロス集計】

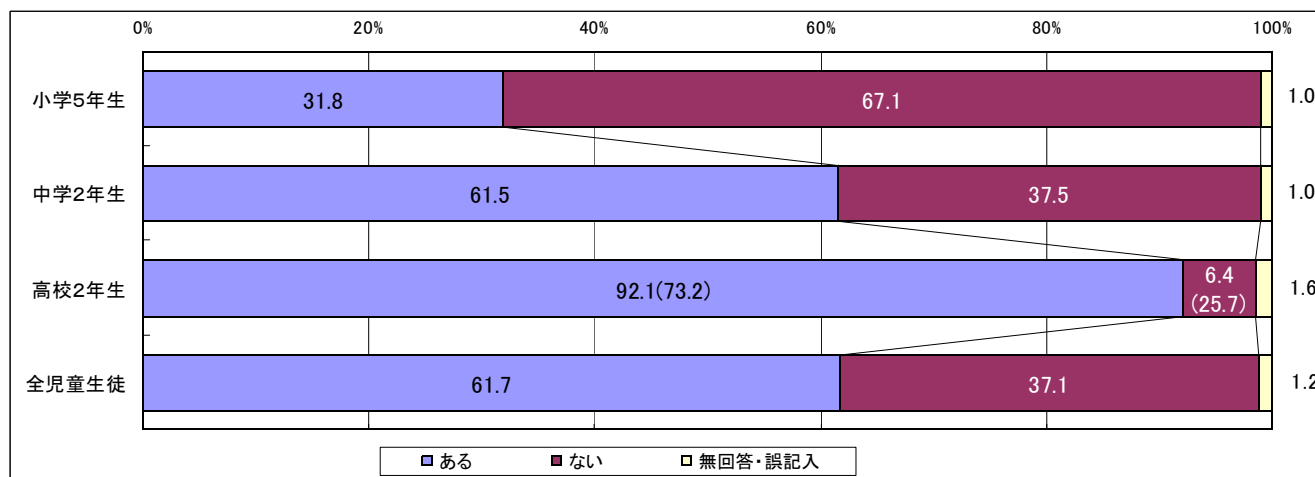


- 「困っている人の手助けをしたいから」と回答した者のうち「自分から進んで参加した」割合は、「老人ホームや病院などへの訪問」13.9%、「保育活動、障害のある人への支援」17.1%である。一方、「学校の授業や行事、町内会など地域の活動として参加した」割合を見ると、「老人ホームや病院などへの訪問」44.7%、「保育活動、障害のある人への支援」29.2%である。このことは、平成14年度と同様の傾向である。

4 メールのやりとり 【小学5年生…問23】【中学2年生…問23】【高校2年生…問23】

あなたは、だれかとパソコンや携帯電話でメールのやりとりをしたことがありますか。次の中からあてはまるものを選んで番号を教えてください。

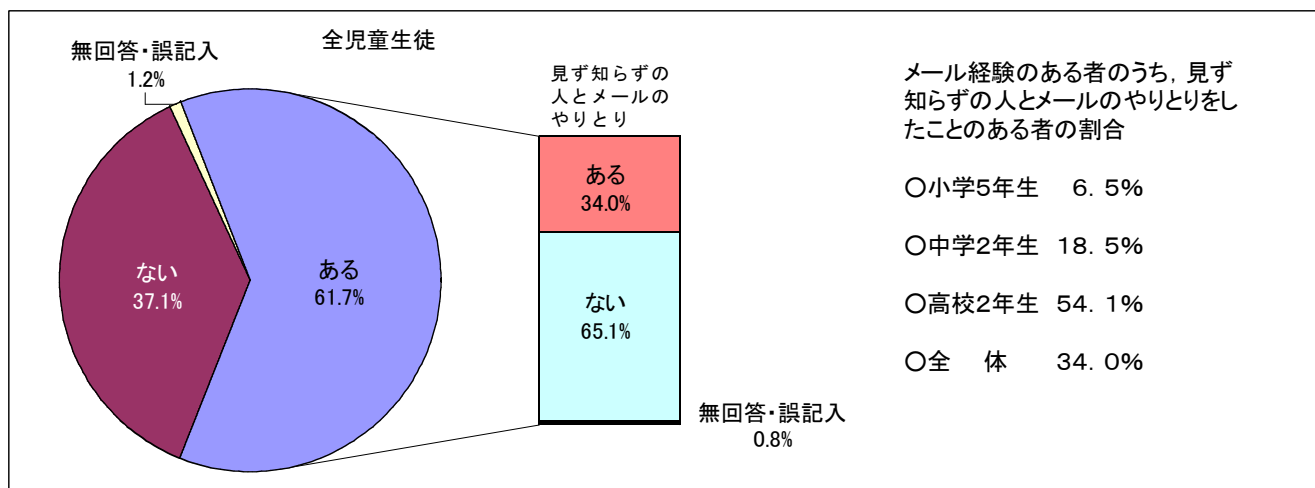
(1) ある (2) ない



5 見ず知らずの人とのメール 【小学5年生…問24】【中学2年生…問24】【高校2年生…問24】

「メールのやりとりをしたことがある」人に聞きます。あなたは、見ず知らずの人とメールのやりとりをしたことがありますか。次の中からあてはまるものを選んで番号を教えてください。

(1) ある (2) ない

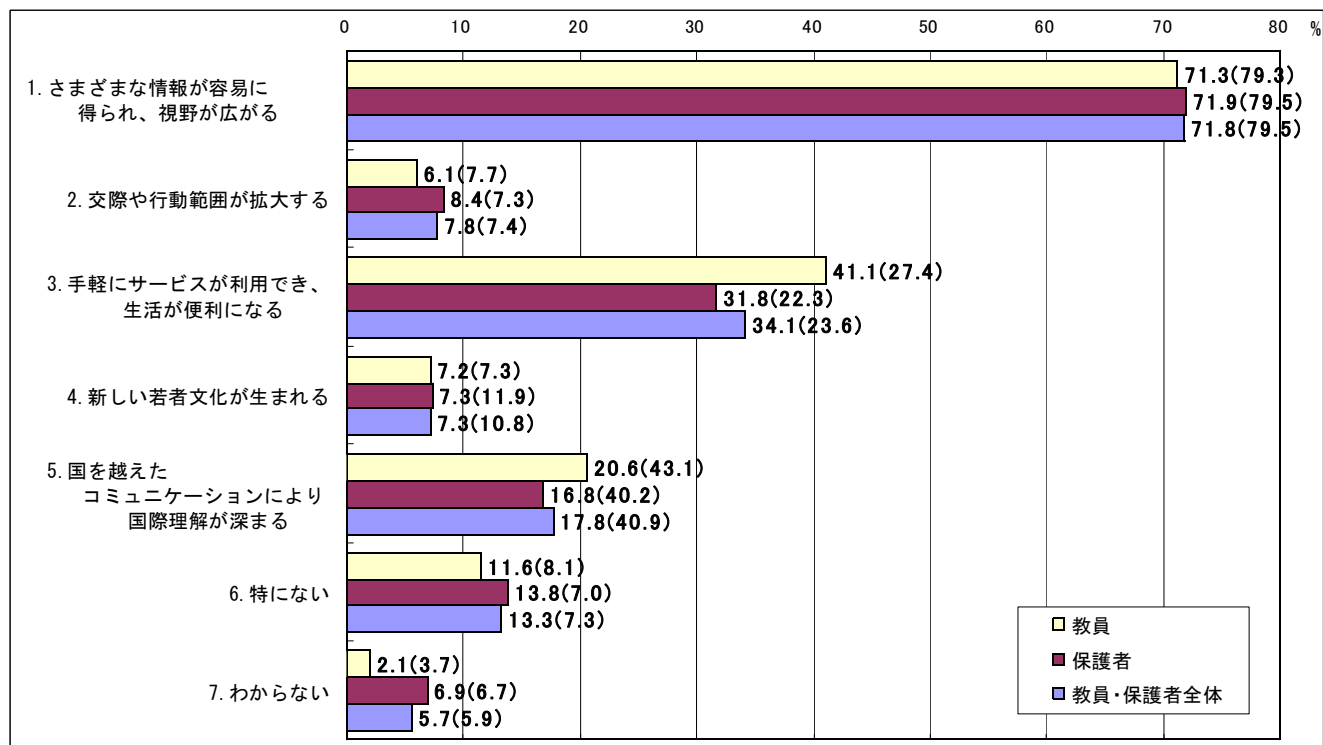


- 「メールのやりとりの経験がある」と回答した割合は、小5 31.8%、中2 61.5%、高2 92.1%であった。また、全児童生徒の61.7%がメールのやりとりの経験があったと回答している。メールのやりとりの経験のあった全児童生徒のうち、3人に1人(34.0%)が見ず知らずの人とのメールのやりとりがあったと回答している。
- 平成14年度と比較(高2のみを調査の対象)すると、高2は18.9ポイント増加した。インターネット環境の進展や携帯電話の普及など、メールのやりとりが日常化している状況が背景にあると考えられる。今後、情報モラルに関する教育の在り方がいっそう重要になってくると考えられる。

6 情報の利点 【教員…問20】【保護者…問28】

情報機器・情報サービスの普及・使用により青少年にプラスとなることは何だと思えますか。次の中からあてはまるものを二つまで選んで番号を教えてください。

- | | |
|-------------------------------|------------------|
| (1) さまざまな情報が容易に得られ、視野が広がる | (2) 交際や行動範囲が拡大する |
| (3) 手軽にサービスが利用でき、生活が便利になる | (4) 新しい若者文化が生まれる |
| (5) 国を越えたコミュニケーションにより国際理解が深まる | (6) 特にない |
| (7) わからない | |

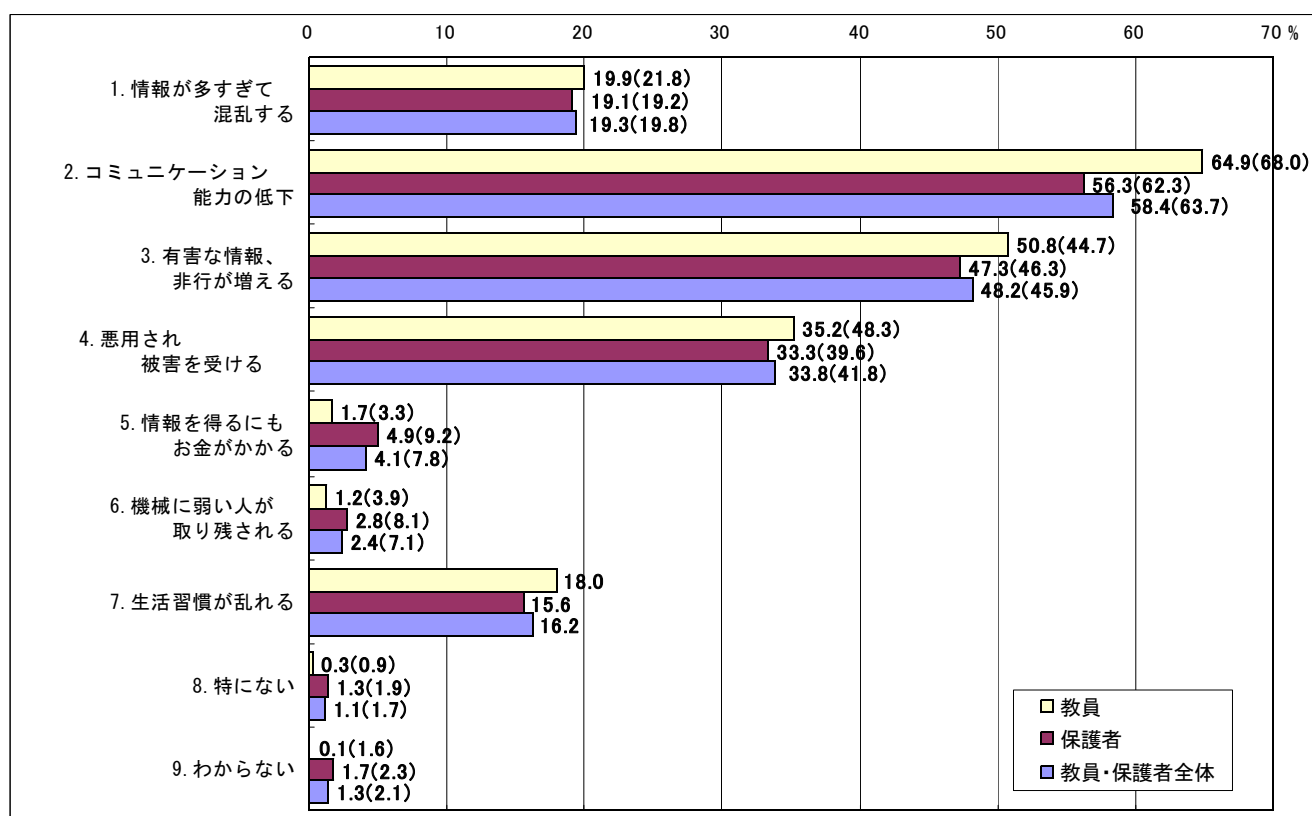


- 「情報の利点」に関して、教員・保護者全体の回答の割合が最も高いのは、「さまざまな情報が容易に得られ、視野が広がる」(71.8%)であり、次いで「手軽にサービスが利用でき、生活が便利になる」(34.1%)「国を越えたコミュニケーションにより国際理解が深まる」(17.8%)の順である。平成14年度と比較すると、2位と3位の順位が入れ替わっている。

7 情報の弊害 【教員…問21】【保護者…問29】

情報機器・情報サービスの普及・使用により青少年にマイナスとなることは何だと思えますか。次の中からあてはまるものを二つまで選んで番号を教えてください。

- (1) 情報が多すぎて混乱する
- (2) 人と直接ふれあう機会が少なくなり、対面でのコミュニケーション能力が低下する
- (3) 有害な情報が簡単に入手できるようになり、非行が増える
- (4) 悪用されたり誤って使われたりして被害を受ける
- (5) ちょっとした情報を得るにもお金がかかる
- (6) 機械に弱い人が取り残される
- (7) 生活習慣が乱れる
- (8) 特にない
- (9) わからない

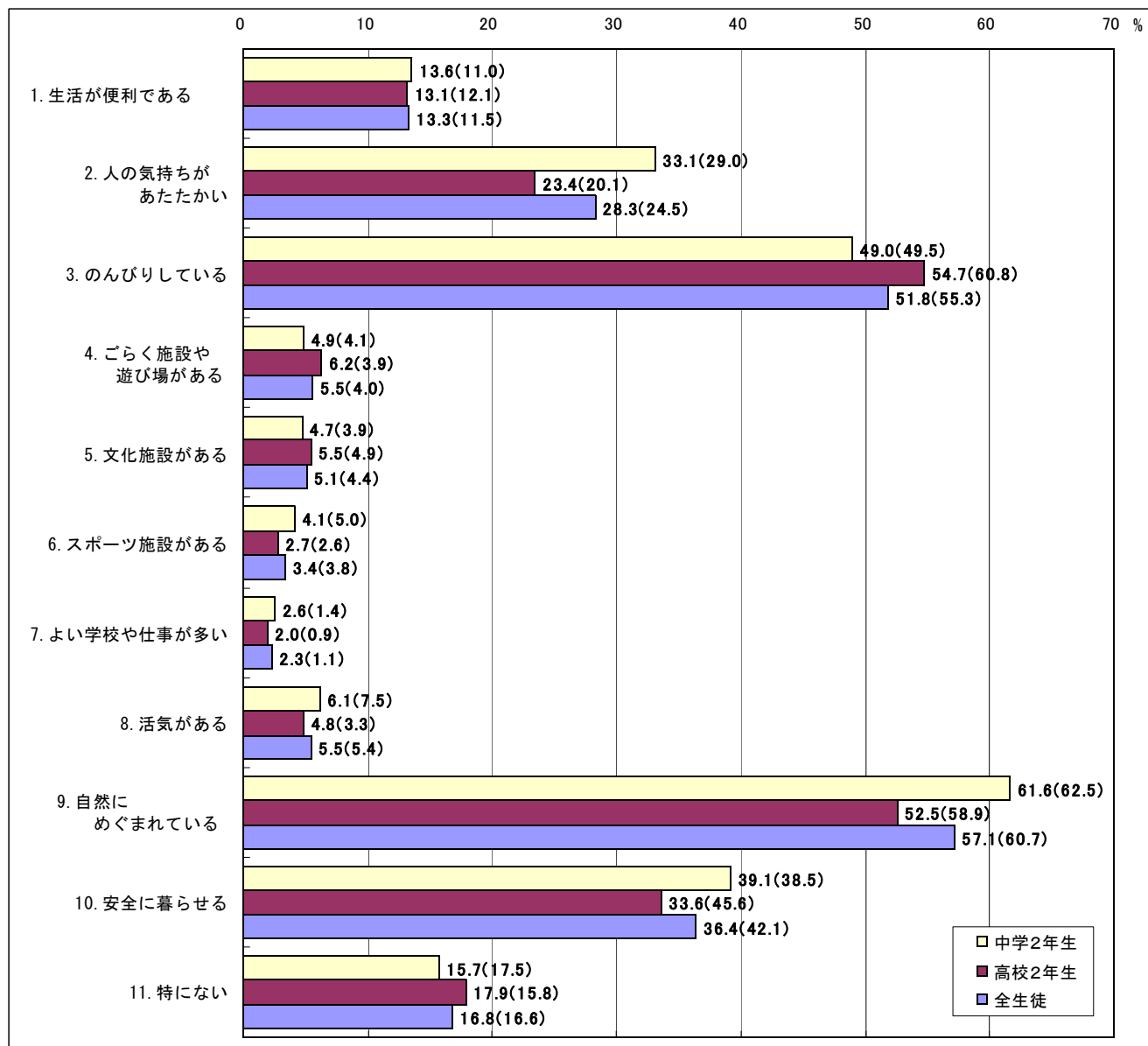


- 「情報の弊害」に関して、教員・保護者全体の回答の割合が最も高いのは、「コミュニケーション能力が低下する」(58.4%)、「有害な情報が簡単に入手できるようになり、非行が増える」(48.2%)、「悪用されたり誤って使われたりして被害を受ける」(33.8%)の順である。順位は平成14年度と同じである。今回新たに加えた「生活習慣が乱れる」に関する回答の割合は16.2%であった。

8 あなたの町が好きですか 【中学2年生…問25】 【高校2年生…問25】

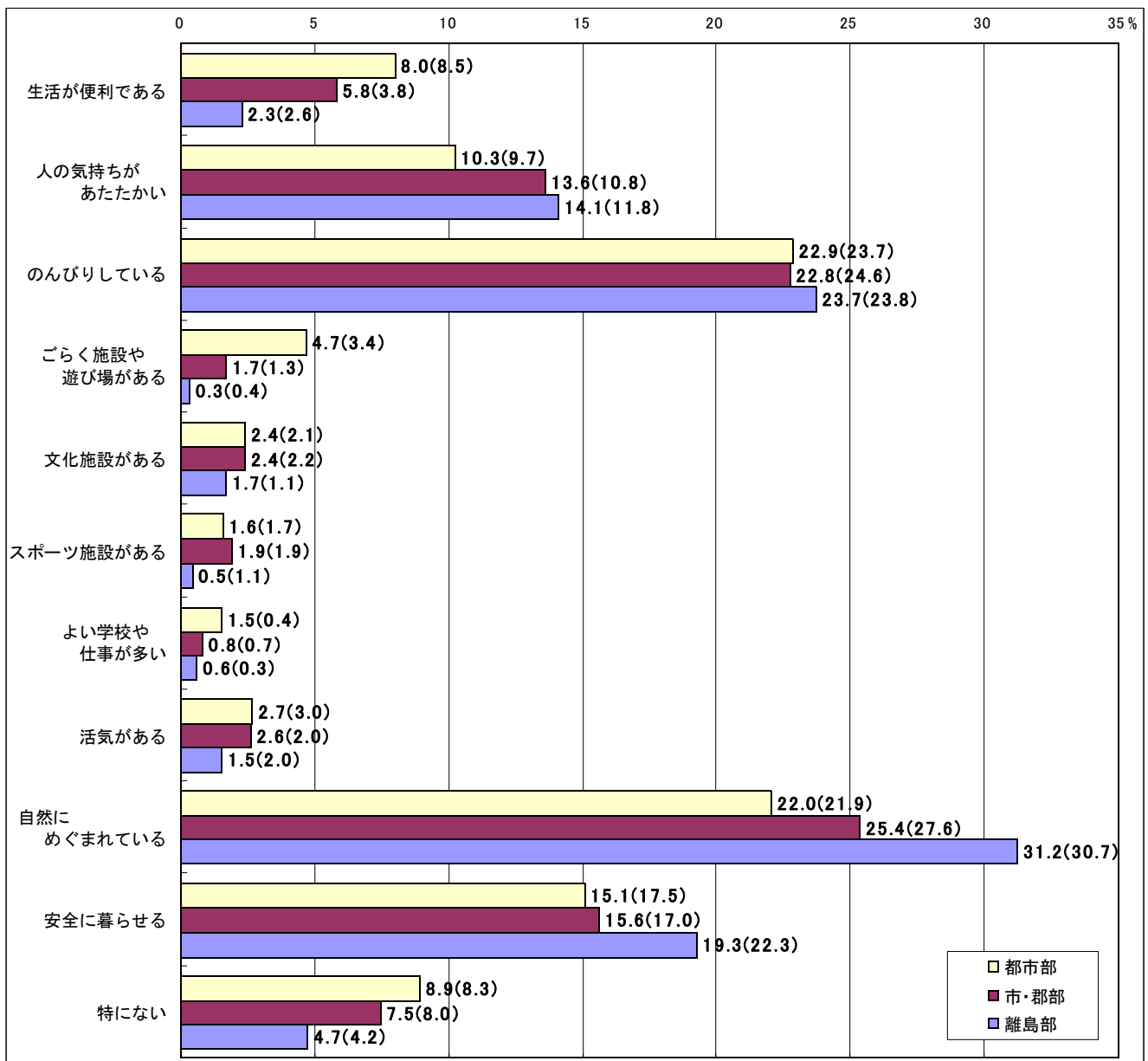
あなたは、今住んでいる市や町のどういうところが好きですか。次の中からあなたの考えに近いものを三つまで選んで番号を答えてください。

- (1) 生活が便利である (2) 人の気持ちがあたたかい (3) のんびりしている
 (4) ごらく施設（映画館や遊園地など）や遊び場がある (5) 文化施設（図書館や美術館など）がある
 (6) スポーツ施設がある (7) よい学校や仕事が多い (8) 活気がある
 (9) 自然にめぐまれている (10) 安全に暮らせる (11) 特にない



● 中2・高2の合計で回答の割合が最も高いのは、「自然にめぐまれている」(57.1%)であり、次いで「のんびりしている」(51.8%)、「安全に暮らせる」(36.4%)の順である。順位は、平成14年度と同じである。

◇地区別

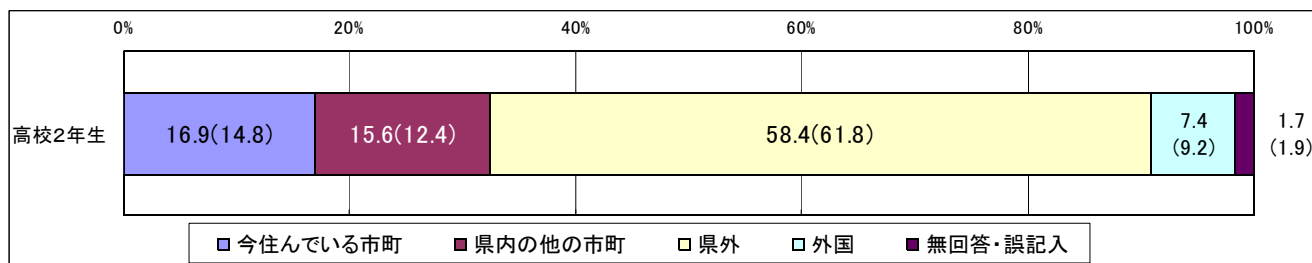


- いずれの地区も上位3位内に「自然にめぐまれている」「のんびりしている」「安全に暮らせる」が含まれている。平成14年度と上位3項目は同じである。

9 どこで暮らしたいか 【高校2年生…問26】

あなたは、社会人になったとき、どこで暮らしたいですか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号を答えてください。

- (1) 今住んでいる市町 (2) 県内の他の市町 (3) 県外 (4) 外国

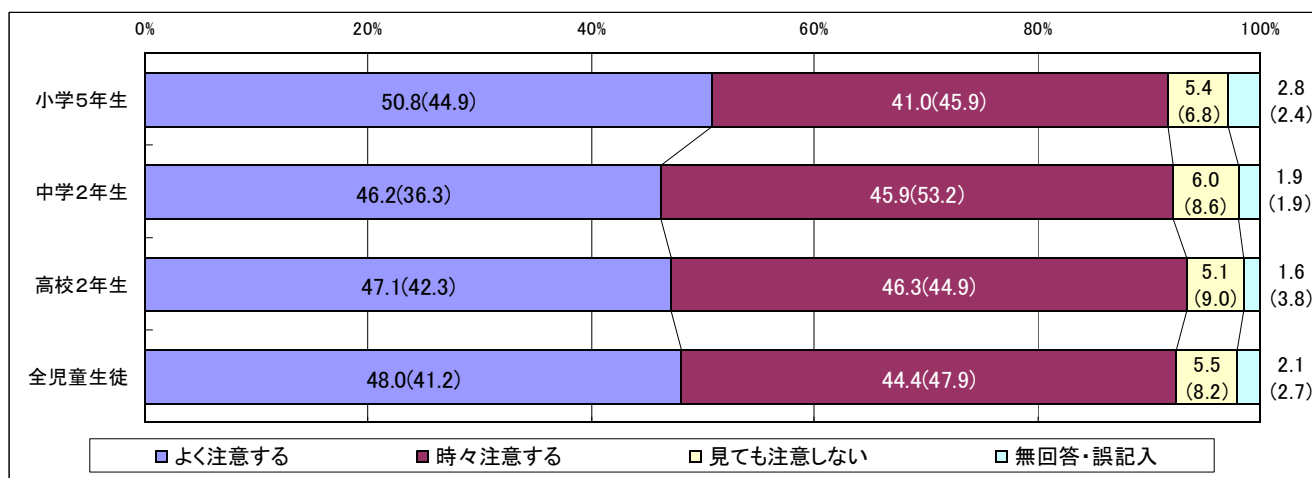


- 高2の回答の割合は、「県外」(58.4%)、「今住んでいる市町」(16.9%)、「県内の他の市町」(15.6%)、「外国」(7.4%)の順である。順位は平成14年度と同じである。

10 大人は注意するか 【小学5年生…問30】【中学2年生…問32】【高校2年生…問33】

あなたたちが悪いことや迷惑をかけることをしたとき、まわりの大人は注意しますか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号を答えてください。

- (1) よく注意する (2) 時々注意する (3) 見ても注意しない

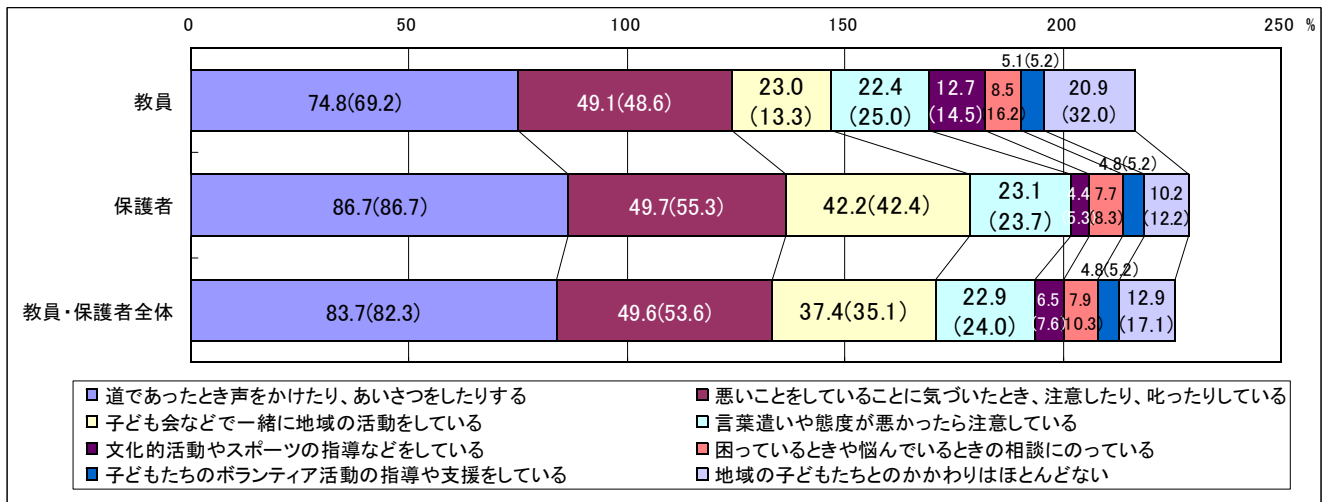


- 「よく注意する」 + 「時々注意する」と回答した割合は、小5 91.8%、中2 92.1%、高2 93.4%となり、児童生徒は地域の大人の目を意識して生活していることがうかがえる。
- 平成14年度と比較すると、「よく注意する」 + 「時々注意する」と回答した割合が、全校種で増加しており、子どもに対する大人の関わり方の改善がうかがえる。

1.1 地域の子どもへの接し方 【教員…問12】【保護者…問20】

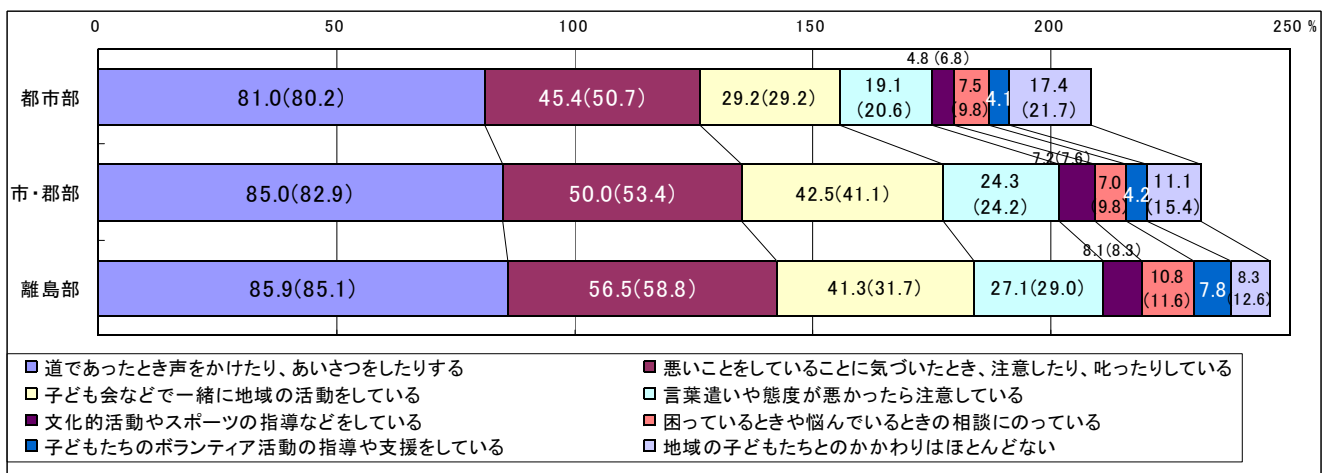
あなたは、自分の居住している地域の子どもたちに対して、普段どのように接していますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号を教えてください。

- (1) 道であったとき声をかけたり、あいさつをしたりする
- (2) 悪いことをしていることに気づいたとき、注意したり、叱ったりしている
- (3) 子ども会などで一緒に地域の活動をしている
- (4) 言葉遣いや態度が悪かったら注意している
- (5) 文化的活動やスポーツの指導などを行っている
- (6) 困っているときや悩んでいるときの相談にのっている
- (7) 子どもたちのボランティア活動の指導や支援をしている
- (8) 地域の子どもたちとのかかわりはほとんどない



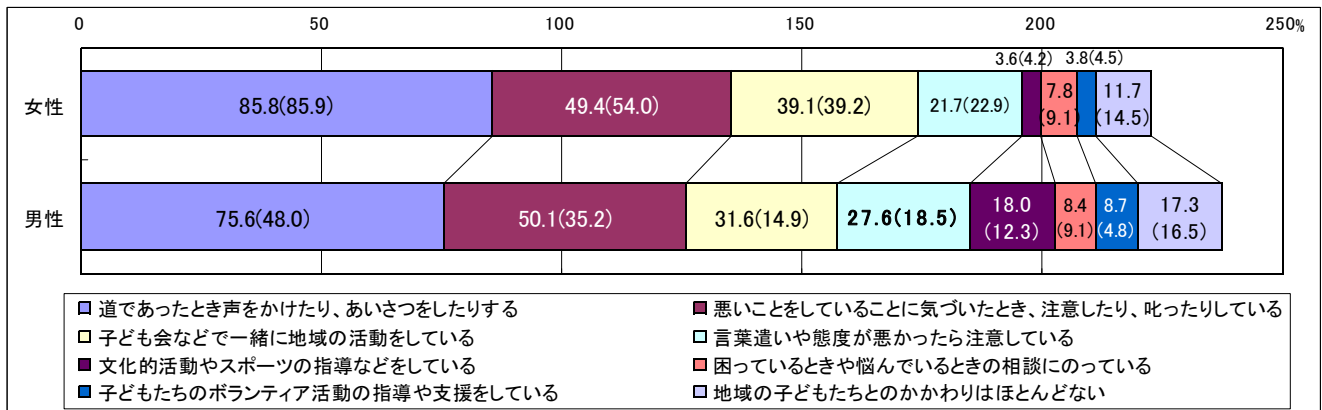
- 教員・保護者の合計で、回答の割合の最も高いのは「道であったとき声をかけたり、あいさつをしたりする」(83.7%)であり、次いで「悪いことをしていることに気づいたとき、注意したり、叱ったりしている」(49.6%)、「子ども会などで一緒に地域の活動をしている」(37.4%)の順である。順位は平成14年度と同じである。

◇大人全体の地区別



- 都市部、市・郡部、離島部のいずれも回答の割合が最も高いのが、「道であったとき声をかけたり、あいさつをしたりする」、次いで「悪いことをしていることに気づいたとき、注意したり、叱ったりしている」、「子ども会などで一緒に地域の活動をしている」の順である。

◇大人全体の男女別

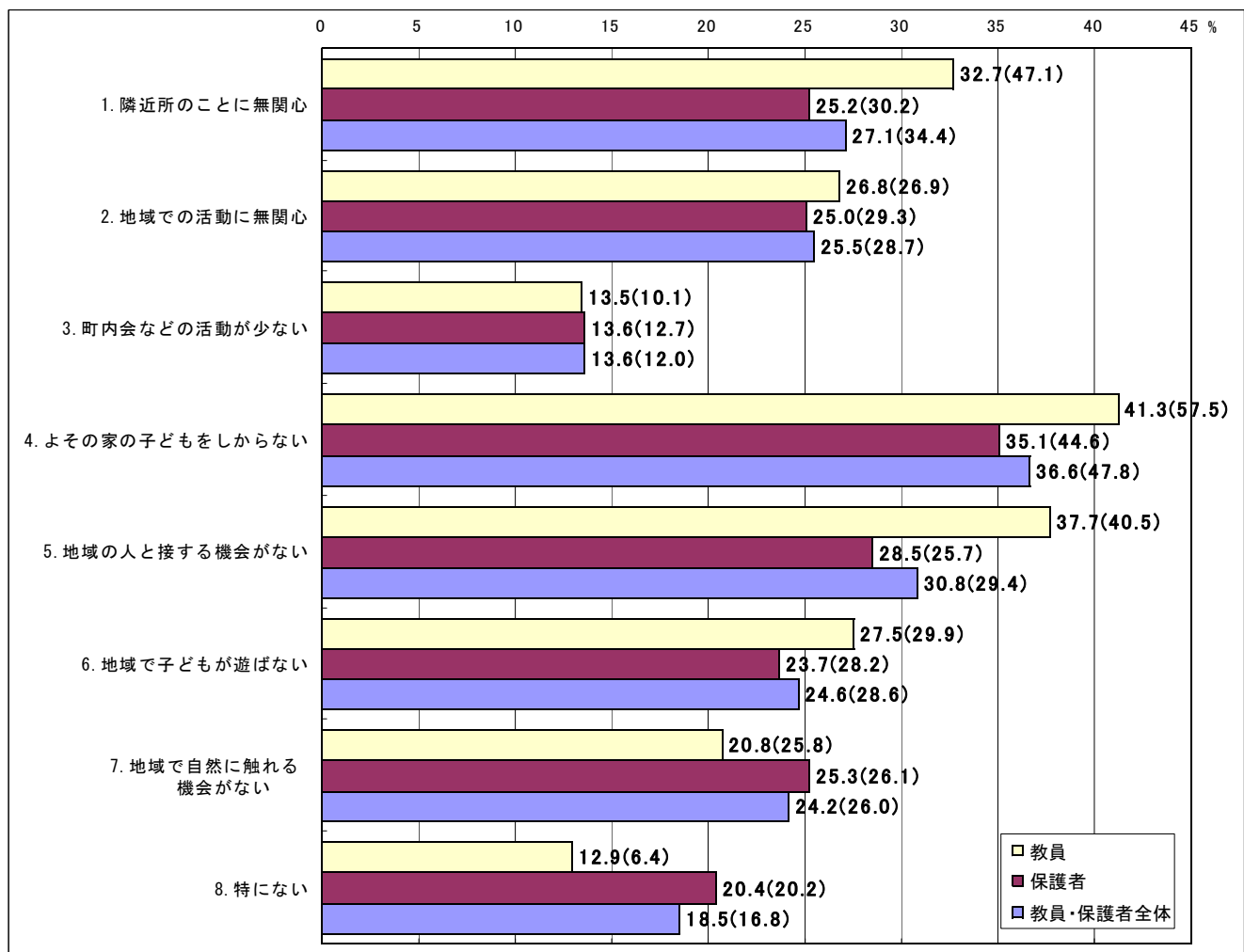


- 回答した割合が男女ともに高いのは、「道であったとき声をかけたり、あいさつをしたりする」「悪いことをしていることに気づいたとき、注意したり、叱ったりしている」である。平成14年度と比較すると、男性はこれらの項目でそれぞれ27.6ポイント、14.9ポイントと増加している。
- 女性が男性よりも割合が高いものは、「道であったとき声をかけたり、あいさつをしたりする」(女性 85.8%、男性 75.6%)、「子ども会などで一緒に地域の活動をしている」(女性 39.1%、男性 31.6%)である。

1 2 地域の問題 【教員…問13】【保護者…問21】

自分の居住している地域社会について、問題だと思う点をあげるとすればどのようなことがありますか。次の中から三つまで選んで番号を教えてください。

- (1) 隣近所のことに無関心な人が増えた
- (2) 地域での活動やイベントなどに無関心な人が増えた
- (3) 町内会などの活動が少なくなった
- (4) よその家の子どもをしからなくなった
- (5) 子どもが地域の人と接する機会が少なくなった
- (6) 地域で子どもが遊んだり、スポーツをしたりする機会が少なくなった
- (7) 地域で自然に触れる機会が少なくなった
- (8) 特にない

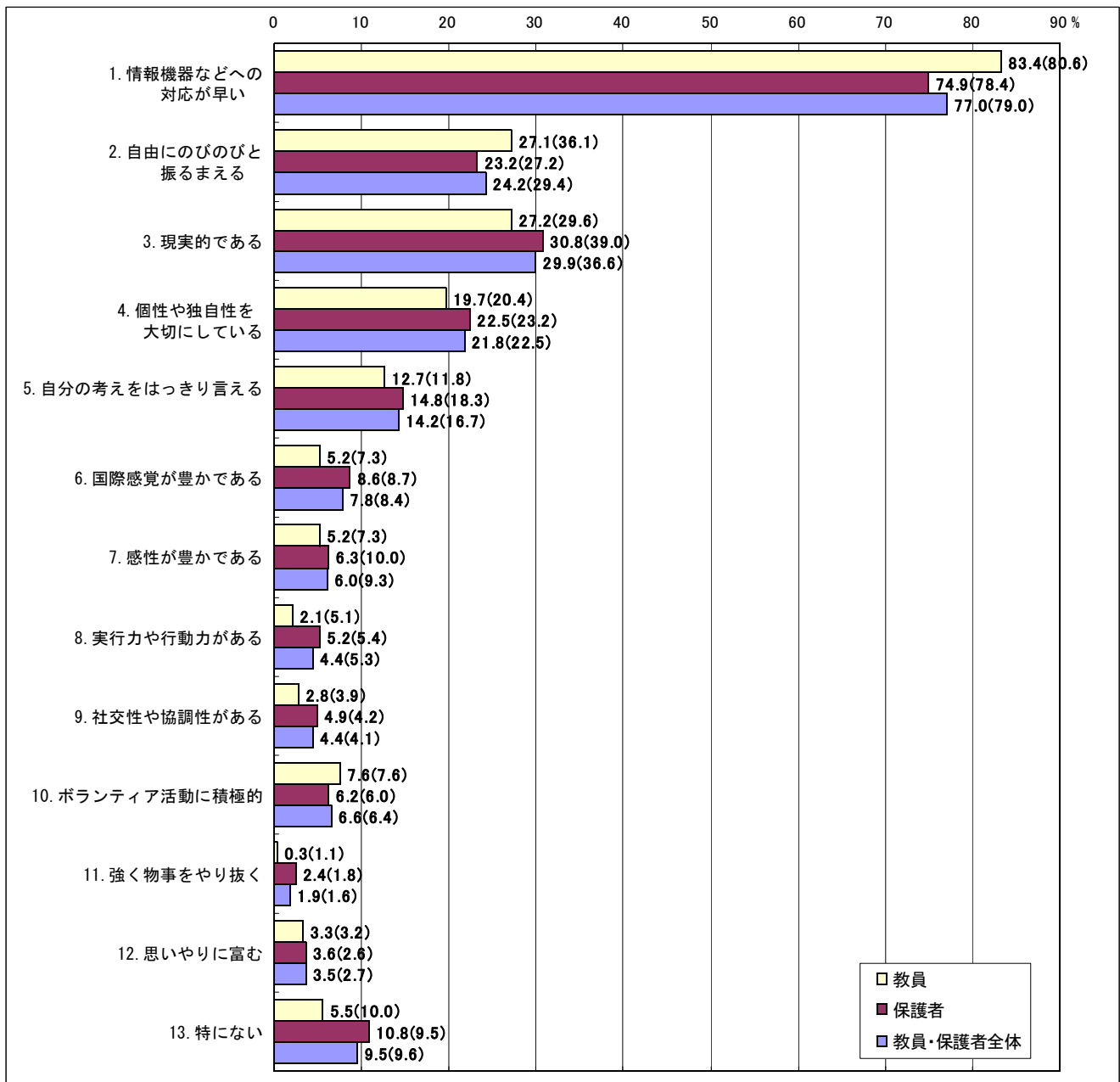


- 教員・保護者全体で、回答の割合が最も高いのは、「よその家の子どもをしからなくなった」(36.6%)であり、次いで「子どもが地域の人と接する機会が少なくなった」(30.8%)、「隣近所のことに無関心な人が増えた」(27.1%)の順である。
- 平成14年度と比較すると、「よその家の子どもをしからなくなった」という項目では、教員(16.2ポイント)、保護者(9.5ポイント)と減少し、「隣近所のことに無関心な人が増えた」という項目でも、教員(14.4ポイント)、保護者(5.0ポイント)と減少している。

1.3 現在の青少年の優れている点 【教員…問14】【保護者…問22】

現在の青少年の考え方や行動を身近に見て、優れている点をあげるとすればどのようなことだと思いますか。次の中から三つまで選んで番号を答えてください。

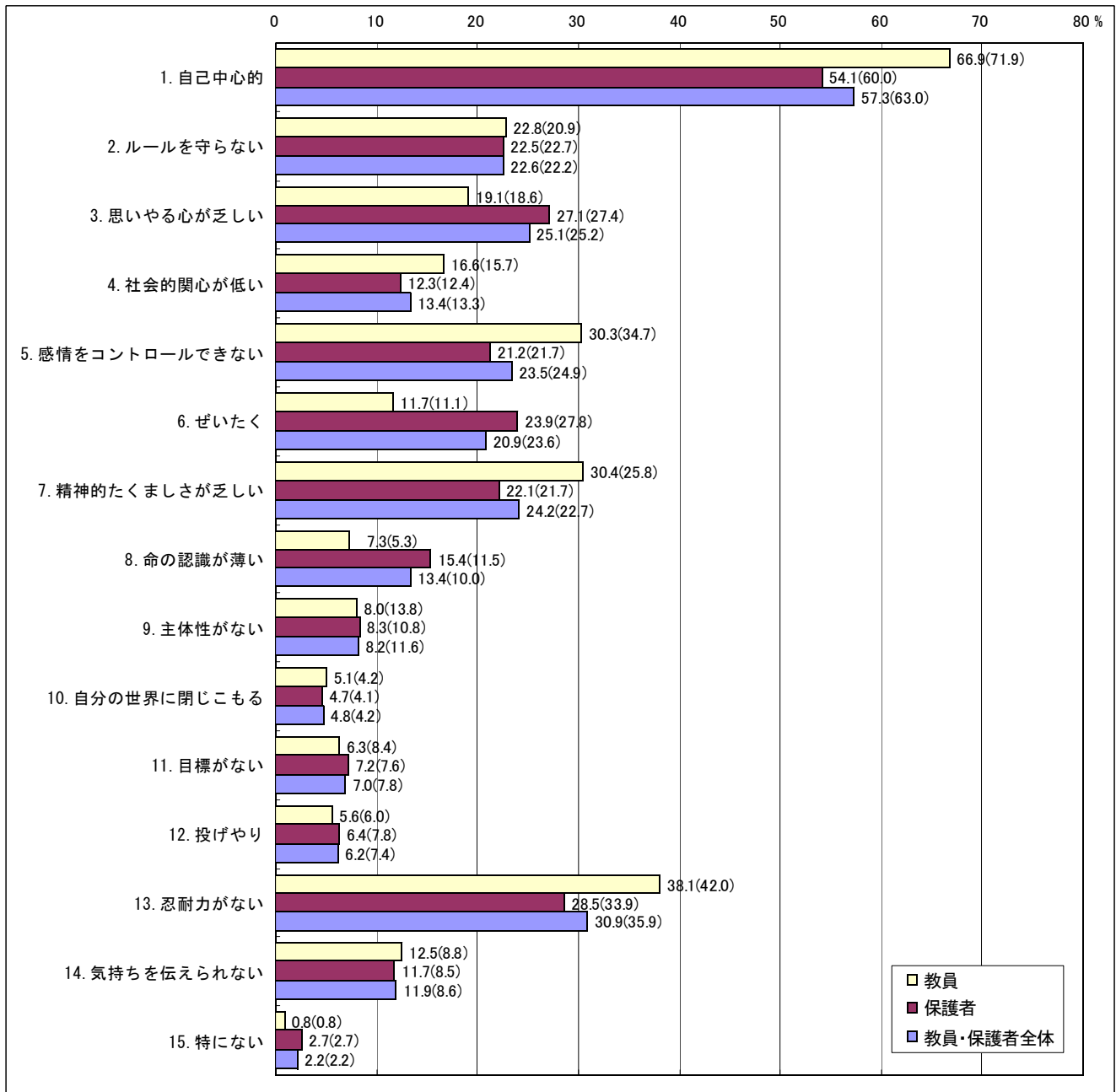
- | | |
|-------------------|------------------------|
| (1) 情報機器などへの対応が早い | (2) 自由にのびのびと振るまえる |
| (3) 現実的である | (4) 個性や独自性を大切にしている |
| (5) 自分の考えをはっきり言える | (6) 国際感覚が豊かである |
| (7) 感性が豊かである | (8) 実行力や行動力がある |
| (9) 社交性や協調性がある | (10) ボランティア活動に積極的に参加する |
| (11) ねばり強く物事をやり抜く | (12) 思いやりに富む |
| (13) 特にない | |



● 教員・保護者全体で、回答の割合が最も高いのは、「情報機器などへの対応が早い」(77.0%)であり、次いで「現実的である」(29.9%)、「自由にのびのびと振るまえる」(24.2%)の順である。順位は平成14年度と同じである。

14 現在の青少年の憂慮すべき点 【教員…問15】【保護者…問23】

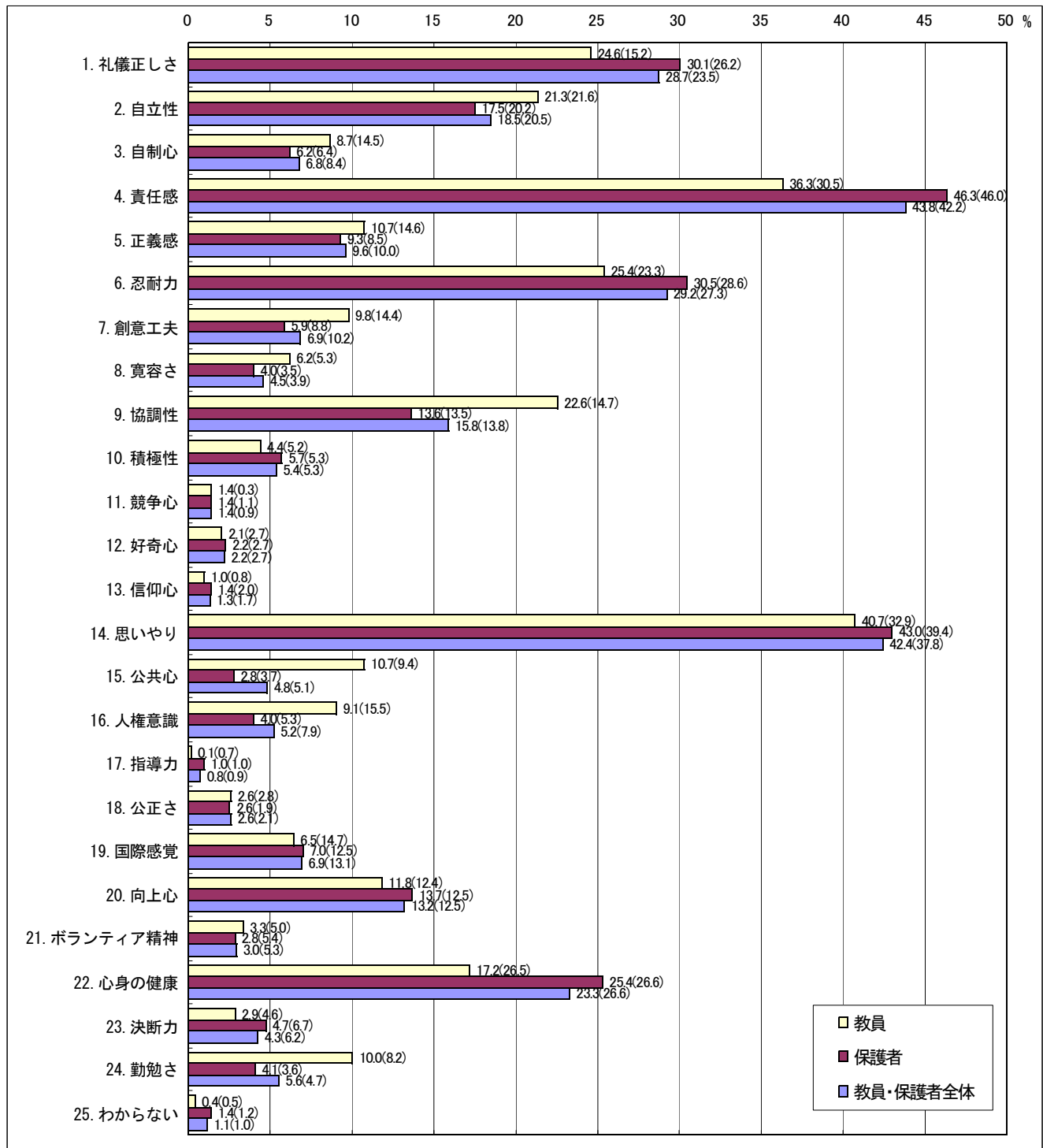
現在の青少年の考え方や行動を身近に見て、憂慮すべき面をあげるとすればどのようなことだと思いますか。次の中から三つまで選んで番号を教えてください。



- 教員・保護者全体で、回答の割合が最も高いのは、「自己中心的」(57.3%)であり、次いで「忍耐力がない」(30.9%)、「思いやる心が乏しい」(25.1%)、「精神的なたくましさが乏しい」(24.2%)、「感情をコントロールできない」(23.5%)の順である。順位は平成14年度と同じである。
- 教員と保護者の回答の割合で差があるものとして、教員の回答した割合が保護者より高いのは「自己中心的」(12.8ポイント)、「忍耐力がない」(9.6ポイント)、「感情をコントロールできない」(9.1ポイント)、「精神的なたくましさが乏しい」(8.3ポイント)である。保護者の回答した割合が教員より高いのは、「ぜいたく」(12.2ポイント)「命の認識が薄い」(8.1ポイント)「思いやる心が乏しい」(8.0ポイント)である。

15 21世紀をになう青少年が身に付けるべき資質 【教員…問17】 【保護者…問25】

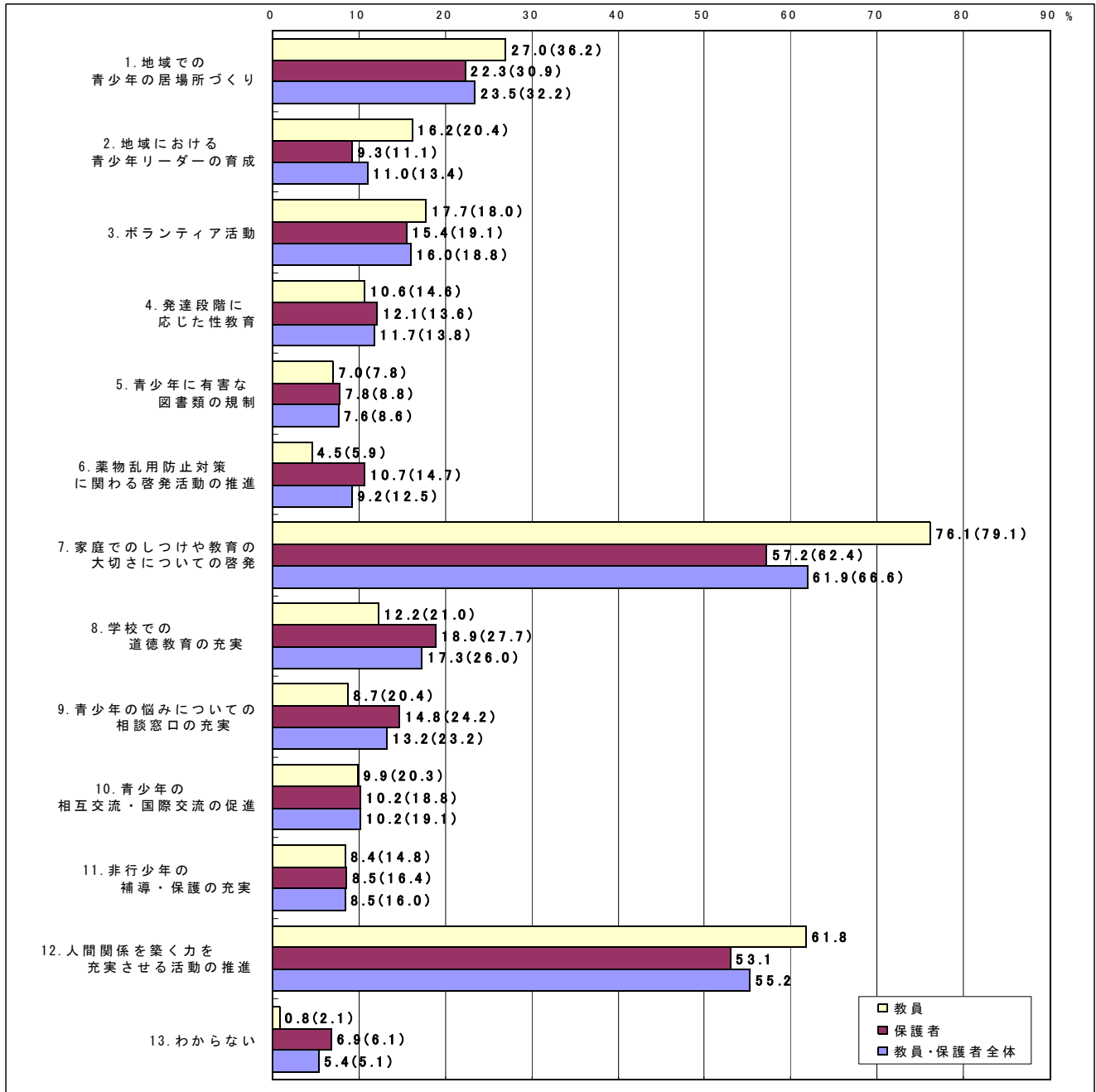
あなたは、21世紀をになう青少年が身に付けるべき資質は何だと思いますか。次の中から特に大切と思うものを三つまで選んで番号を教えてください。



- 教員・保護者全体で、回答の割合が最も高いのは、「責任感」(43.8%)であり、次いで「思いやり」(42.4%)、「忍耐力」(29.2%)、「礼儀正しさ」(28.7%)、「心身の健康」(23.3%)の順である。平成14年度と上位5項目は同じであるが、順位では前回4位の「心身の健康」と前回5位の「礼儀正しさ」が入れ替わっている。
- 教員と保護者の回答の割合で差があるものとして、教員の回答した割合が保護者より高いのは、「協調性」(9.0ポイント)、「公共心」(7.9ポイント)、「勤勉さ」(5.9ポイント)である。保護者の回答した割合が教員より高いのは、「責任感」(10.0ポイント)、「心身の健康」(8.2ポイント)、「礼儀正しさ」(5.5ポイント)である。

16 望ましい成長発達を支える取組 【教員…問18】【保護者…問26】

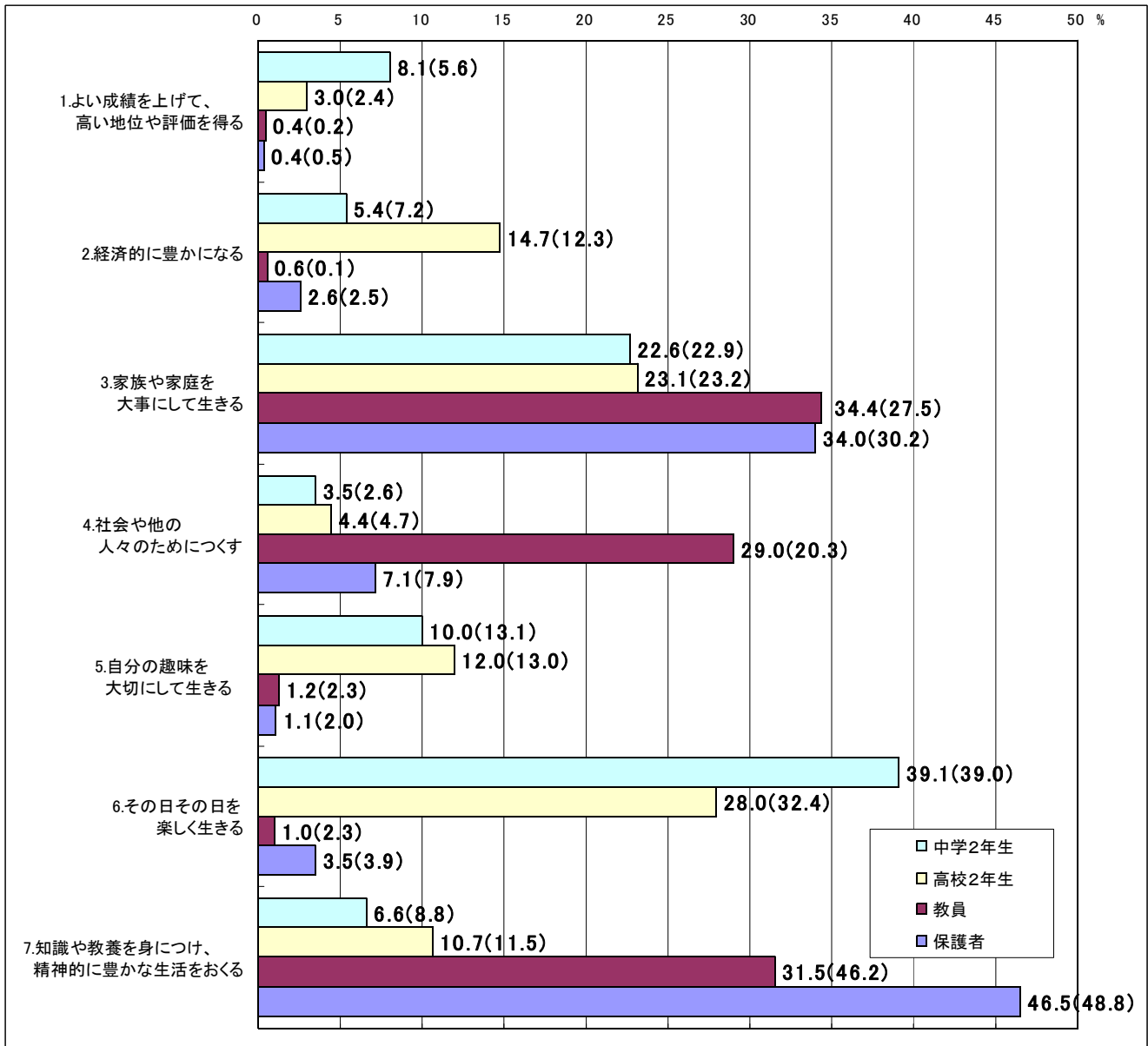
青少年の望ましい成長・発達を支えていくためにはどのような取組が必要だと思いますか。次の中から三つまで選んで番号を教えてください。



- 教員・保護者全体で、回答の割合が最も高いのは、「家庭でのしつけや教育の大切さについての啓発」(61.9%)であり、次いで「人間関係を築く力を充実させる活動の推進」(55.2%)、「地域での青少年の居場所づくり」(23.5%)、「学校での道徳教育の充実」(17.3%)の順である。
- 平成14年度と比較すると、今回新たに設定した「人間関係を築く力を充実させる活動の推進」(55.2%)に回答が集まったことを除いて、上位4項目の順位は同じである。
- 教員と保護者の回答の割合で差があるものとして、教員の回答した割合が保護者より高いのは、「家庭でのしつけや教育の大切さについての啓発」(18.9ポイント)、「人間関係を築く力を充実させる活動の推進」(8.7ポイント)、「地域における青少年リーダーの育成」(6.9ポイント)である。保護者の回答した割合が教員より高いのは、「学校での道徳教育の充実」(6.7ポイント)、「薬物乱用防止対策に関わる啓発活動の推進」(6.2ポイント)、「青少年の悩みについての相談窓口の充実」(6.1ポイント)である。

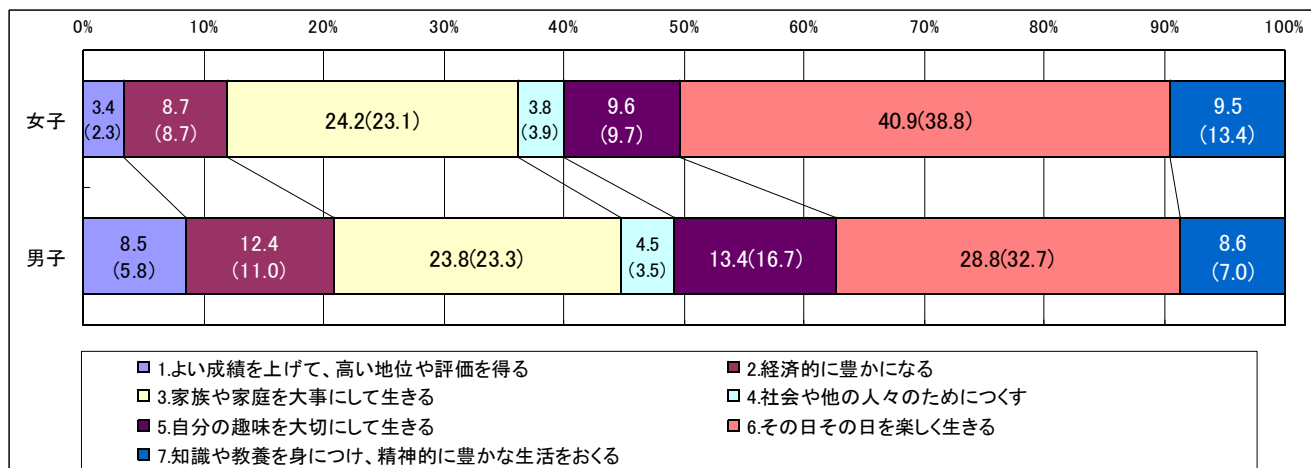
17 子どもの生き方 【中学2年生…問30】【高校2年生…問31】【教員…問16】【保護者…問24】

人生の生き方について、いろいろな考え方がありますが、あなたの考え（児童生徒や子どもさんにどのような生き方をしてほしいと思いますか）に最も近いものを、次の中から一つ選んで番号を教えてください。



- 「家族や家庭を大事にして生きる」項目を除いたすべての項目において、中2・高2と、教員・保護者の回答した割合に大きな差異がある。
- 中2・高2とも共通して回答の割合が最も高いのは、「その日その日を楽しく生きる」であり、次いで「家族や家庭を大事にして生きる」「自分の趣味を大切に生きて生きる」の順である。平成14年度と比較すると、中2・高2とも割合の高い上位3項目の順位は同じである。
- 教員について、回答の割合が最も高いのは、「家族や家庭を大切に生きて生きる」(34.4%)であり、次いで「知識や教養を身に付け、精神的に豊かな生活をおくる」(31.5%)、「社会や他の人々のためにつくす」(29.0%)の順である。保護者について、回答の割合が最も高いのは、「知識や教養を身に付け、精神的に豊かな生活をおくる」(46.5%)であり、次いで「家族や家庭を大事にして生きる」(34.0%)、「社会や他の人々のためにつくす」(7.1%)の順である。平成14年度と比較して、教員、保護者の上位3項目の順位は同じであるが、教員の「社会や他の人々のためにつくす」が8.7ポイント増加し、「知識や教養を身に付け、精神的に豊かな生活をおくる」が14.7ポイント減少した。

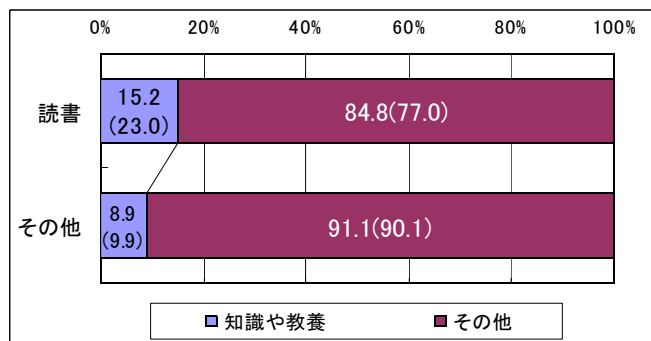
◇子どもの男女別



- 男女ともに、回答の割合が最も高いのは、「その日その日を楽しく生きる」であり、次いで「家族や家庭を大事にして生きる」「自分の趣味を大切に生きて生きる」の順である。この順位は、男女ともに平成14年度と同じである。
- 平成14年度と比較すると、「その日その日を楽しく生きる」の男女の差が6.1ポイントから12.1ポイントに開いている。

◇「知識や教養を身につけ、精神的に豊かな生活をおくる」と「読書」〔I 家庭生活 (P. 25)〕との関係【クロス集計】

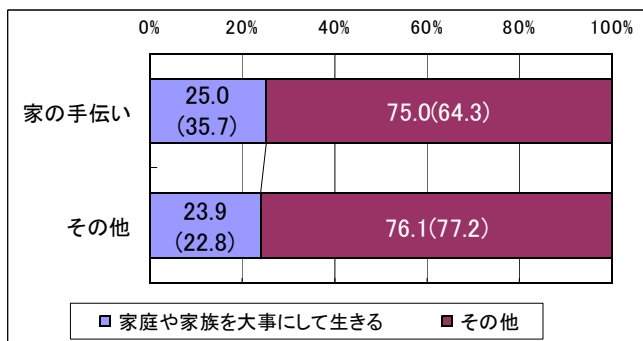
「子どもの生き方」は、「知識を身につけ、精神的に豊かな生活をおくる」の群と、「その他」の群の二つに分け、「下校後の過ごし方」(I 家庭生活)は、「読書」の群と、「その他」の群の二つに分けて分析した。



○読書 46人 その他 1417人

◇「家庭や家族を大事にして生きる」と「家の手伝い」〔I 家庭生活 (P. 25)〕との関係【クロス集計】

「子どもの生き方」は、「家庭や家族を大事にして生きる」の群と、「その他」の群の二つに分け、「下校後の過ごし方」(I 家庭生活)は、「家の手伝い」の群と、「その他」の群の二つに分けて分析した。

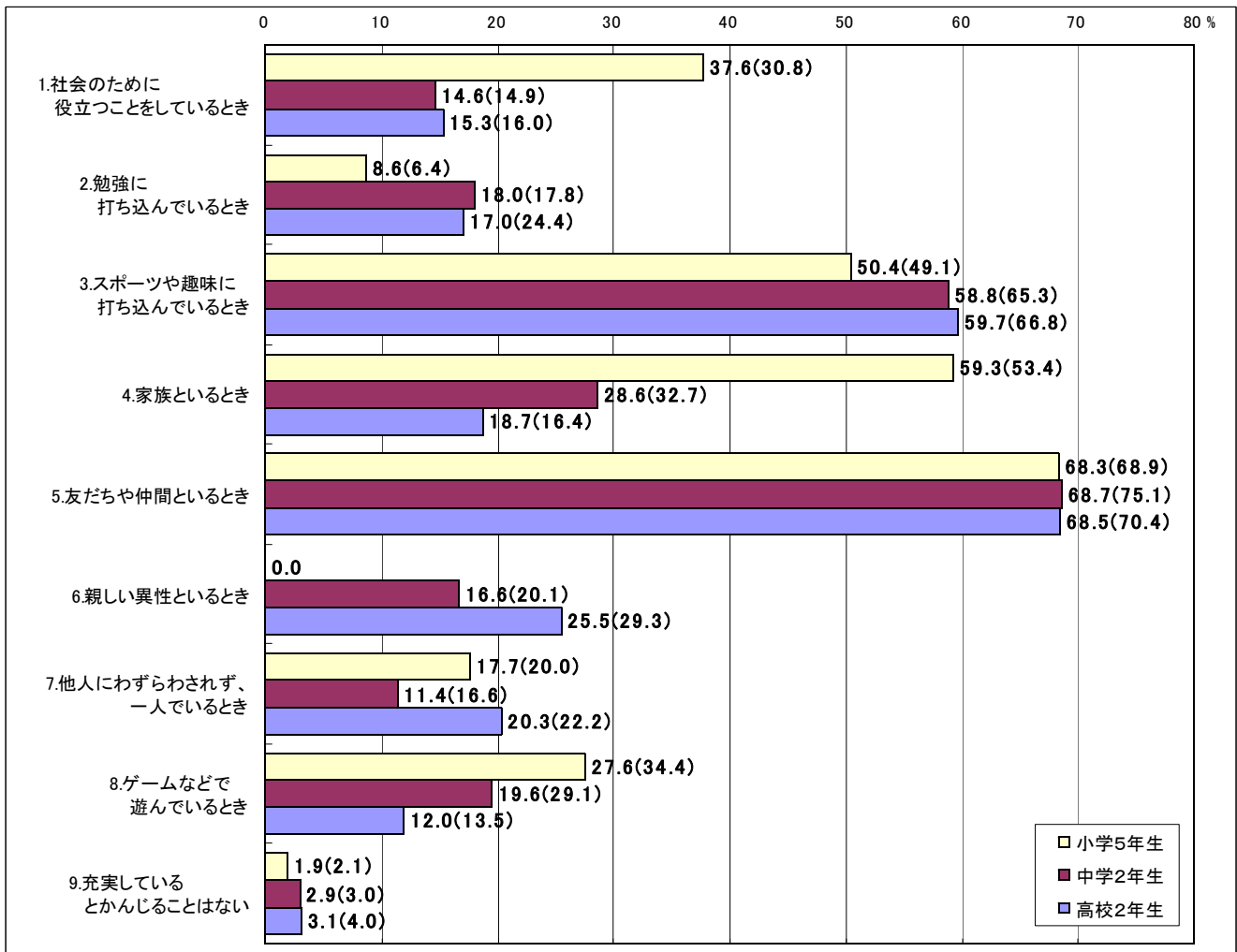


○家の手伝い 40人 その他 1423人

- 平成14年度に顕著な差異が見られた「下校後の過ごし方」と「子どもの生き方」の関係であるが、「下校後の過ごし方」で「読書」や「家の手伝い」を選んだ児童生徒と「その他」を選んだ児童生徒との差が縮まってきている。

18 幸せを感じる時 【小学5年生…問29】【中学2年生…問31】【高校2年生…問32】

あなたはどんなときに充実していると感じますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号を教えてください。



● 各校種とも回答の割合の高い上位3項目の順位は平成14年度と同じである。